



泊中だより

第 10 号

令和8年1月30日発行

学校教育目標

- ・高い知性
- ・豊かな情操
- ・たくましい心身



「ワクワクを大切にしていこう」

校 長 工藤 淳一

3学期が始まりました。受験に向けて努力している3年生の姿勢が学校全体に広がっているからでしょうか、長期休業から学校モードへの切り替えも順調に進んでおります。短い学期ですが、進学や進級に向けた準備を進めなければならない大切な学期となります。一人ひとりの確かな頑張りを期待しています。

さて、冬休みを利用して、大嶋啓介さんの「世界一ワクワクするリーダーの教科書」という本を読みました。その中の「夢が叶う人・叶わない人それぞれの共通点」という部分に納得させられる部分が多くありましたので紹介します。

【夢が叶う人の共通点】

- 夢にワクワクしている
- 夢が叶うと心の底から思っている
- 素直力（すなおりょく）が半端ない
- いつも明るくゴキゲンでいることが多い
- 仲間に感謝している
- 仲間の夢を応援している
- 自分のことより仲間のことを考えている
- 志に生きている
- 夢を叶えてきた仲間がいる
- ピンチにもワクワクしている
- 仲間から愛されている
- 謙虚で学び力（まなびりょく）が半端ない

【夢が叶わない人の共通点】

- 夢に深刻になっている
- 夢が叶わないモノの考え方をしている
- 夢が叶わない行動をとっている
- 夢が叶わないと思っている
- 不機嫌が多い
- 不平不満が多い
- 自分のことしか考えていない
- 他人の夢を応援しない
- 夢にワクワクしていない
- 夢が叶わない人同士でいる
- 夢が叶わないことが当たり前だと思っている
- 夢を否定している

まさに「夢が叶う人」の共通点はポジティブな姿勢そのものだと感じました。

脳科学者の西田文郎さんも「成功する人には、成功する脳の状態がある。成功する人は、ワクワクしているから潜在能力が引き出され成功していく。成功するからワクワクするのではない。ワクワクしているから成功するのだ。」と著書で語っています。

また、「心が変われば行動が変わる。行動が変われば結果が変わる。」という言葉があるように、結果という未来は、何をやるかだけではなく、どんな心で取り組むのかにもかかっていると思います。

今年度もあと2ヶ月です。ラスト2ヶ月、「ワクワク」を大切にしながら、それぞれが持っている目標や夢の実現につなげていきましょう。

2月行事予定表

日	曜	校内行事等	部活	給食
1	日		○	-
2	月	スキー学習（1・2年）	○	○
3	火	村教研第4回一斉部会	×	○
4	水	学力テスト(全学年) 放：全校集会	○	○
5	木	分掌部会②	×	○
6	金		○	○
7	土		○	-
8	日		○	-
9	月	スキーツアー（1・2年）	×	○
10	火		○	○
11	水	建国記念の日	○	-
12	木	職員会議②-1	×	○
13	金	職員会議②-2	×	○
14	土		○	-
15	日		○	-
16	月		○	○
17	火		○	○
18	水	テスト計画(1, 2年生) 専門委員会⑩（後期反省）	○	○
19	木	会議日⑦	×	○
20	金	参観日④・懇談会 SC来校日	×	○
21	土		○	-
22	日		○	-
23	月	天皇誕生日	○	-
24	火		○	○
25	水	議案書検討(6校時) 放：学習委員会企画	○	○
26	木	研修日⑪	×	○
27	金	テスト前放課後活動停止（～3/3）	×	○
28	土		×	-

泊中学校ホームページ

随時更新しています！

【QRコード】⇒



URL

<https://tomarijh.wixsite.com/index>

「受け継がれる思い、生徒会という学び」

— 泊中学校 生徒会新旧役員 鼎談 —

泊中学校では、生徒一人ひとりが学校づくりに主体的に関わる生徒会活動が日々の学校生活を支えています。

今回は、前期生徒会長の■■■■さん副会長の■■■■さん、そして新しく後期生徒会長を務める■■■■さんの3名に集ってもらい、これまでの活動や成長、そして次世代への思いについて語り合いました。

生徒会活動で力を入れたこと

教頭：「まず、この一年間で、生徒会として一番力を入れた取り組みを教えてください。」

中：「前期は行事が少なかった中で、やはり一番大きかったのは陸上記録会だったと思います。スローガンを決めたり、全校が一つになれるように工夫したりすることを頑張りました。」

教頭：「思い描いていた行事になりましたか？」

中：「はい。全校で一致団結して、盛り上がった行事になったと思います。」

野：「生徒会種目の縄跳びやリレーは、特に盛り上がっていて、やっていてよかったなと思いました。」

加：「全部盛り上がっていましたが、特にリレーが印象に残っています。」

生徒会役員として企画し、支える立場だからこそ見える「行事の盛り上がり」。3人の言葉から、達成感が伝わってきました。

悩みや苦労も、確かな学びに

教頭：「活動の中で、大変だったことはありましたか？」

中：「行事そのものよりも、生徒会執行部として『どんな方針で進めていくか』を決めることが一番難しかったです。」

加：「行事自体よりも、準備期間が大変でした。」

華やかな行事の裏には、見えない準備や話し合いの積み重ねがあります。その経験が、3人を確実に成長させていました。

前期会長
■■■■さん

生徒会で身についた力

教頭：「生徒会を経験して、自分の中で変わったと感じることは？」

中：「小学校の頃は人前に出るのが苦手でしたが生徒会を通して『自分はできる!』という自信ができました。」

野：「全校集会での挨拶文を考える中で、文章を考える力がついたと思います。」

加：「スローガンや作文を考えてきた経験が、授業や学級目標を考えるときにも生きていていると感じます。」

前期副会長
野崎 翔太さん

生徒会活動は、行事運営だけでなく、思考力や表現力、そして自己肯定感を育てる場であることが伝わってきます。

先輩から後輩へ、期待と継承

教頭：「■■さん、■■さんから見、新会長の■■さんに期待することは？」

中：「前期も一緒にやってきましたし、人前に立つ経験も積んできたと思います。自分を信じて進めていってほしいです。」

野：「圭真さんが企画したクリスマス会が面白かったので、これからも楽しい企画をどんどん出してほしいです。」

教頭：「では■■さん、先輩たちから受け継ぎたいことは？」

加：「生徒会に入ったばかりの頃、うまく意見が言えなかった自分を、先輩たちが支えてくれました。だからこれからは、自分も後輩に寄り添って、意見を言いやすい雰囲気をつくっていきたいです。」

ここに、生徒会活動の「文化」が確かに受け継がれていることを感じました。

これから生徒会に挑戦する皆さんへ

最後に、これから生徒会に関心をもつ後輩たちへのメッセージを聞きました。

中：「生徒会をやる前の自分と、今の自分は本当に違うと思います。自信もついたり、無駄な経験は一つありません。やってみる価値は絶対にあります。」

野：「文章力など、身につくことがたくさんあります。」

加：「生徒会って堅苦しいイメージがあるかもしれませんが、意見を出してみると意外と楽しいです。身につくことも多いので、ぜひ挑戦してほしいです。」

後期会長
加納 圭真さん

生徒会は、学校を支える活動であると同時に、自分自身を大きく成長させる場でもあります。3人の言葉から、そのことがはっきりと伝わってきました。

これからも泊中学校の生徒会が、生徒一人ひとりの力によって、さらに温かく活気あるものへと発展していくことを期待しています。